

る程の實力なく、地方的に町村の補助費取扱等に終してそれ以外運動をしてゐる。しかし最初に全農が西害対策を叫び、凡ての村閭を動員したことは一つの成果であらう。栃木では西害損失要求活動を起した。

不正摘發斗争

自作農創設維持資金を利用する土地買逃は、最近に於ける一つの傾向であり、またこれには多くの不正と醜行がある。栃木縣益谷郡泉村の不在地主小縣公壽農場の小作人は、自作農維持創設組合をつくつて二七一・二六円の自作農創設低利資金を借入れ、公壽の土地四十町歩を買ひつけることになつたのであるが、同農場は二千元を介在せる有力者に三千円を村役場に寄附しそれだけ高く、つまり合計五千円だけ小作人に安く賣りつけやうとした。縣政はこの問題がいち早く取りあげ、不正摘發斗争委員会を設置して、縣へ抗議すると共に不正亂揮の猛運動を起し、農場から一五〇〇円、役場から一三五〇円を自作農創設維持組合に送らせられた。

借金競賣に對して

麦作、干粟の收穫を目当てに、栃木では、肥料屋と銀行と高利貸とが支那命令、差押、競賣、の盤據があつた。王生、阿久津洋二の問題は陸續と起つて来たが、例の実行隊的な大衆交換、競賣斗争で片づはしからなければならぬ。また農銀と勸銀が合併せんとしてゐるがこれによつて羊賦金、利子の整理は

は強化され、競争による土地取引が激増するのでその動きを注視してゐる。

産業組合、農事実行組合に對して

産組に對しては、外部論議、倉庫本位の経営化をスローガンとして斗つてゐる。王生町中央実行組合は、組合員が高利貸から競賣の執行を受けたり、首く、りの足をひっぱるやうに債権者の配当加入をやつたので、全農支部はこれに反對し、倉庫入家の信頼を獲得した。

部落世話役活動は個人的になり易い。部落に於ける勤勞農民の連帯性を強める共通利害は産組と実行組合に多く関連してゐるので、そのなかへの喰入りに島根縣政は苦心してゐる。

協同組合的活動

八戸診療所は倉主人の手澤山と病弱に苦しむ人々のため、日じ相談を開始した。高知縣政のある高岡町に全農が主体となつて、大衆診療所を開設したが、これは未組組との親善の度合を急激に増してゐる。富士消費組合の活動もなか／＼活潑だ。

福島の小島支部は組合員十名、それが全部極貧であるのが特色がある。各組合員は兎も三十頭、雞も二十羽位づゝもつことになつて着々此の生産的事業を実行してゐる。卵や兎肉を賣りこむ先は消費組合である。極貧農を如何にして立ち止らせろか、その一つの試みであつて、組合員は兎も二匹を斗争資金